

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 142人

② 算数 142人

5 留意事項

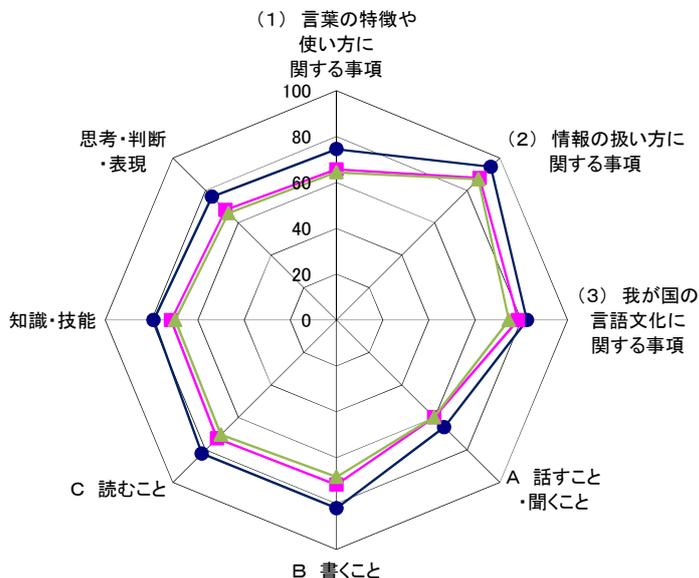
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	94.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.4	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.0	59.9	59.8
	B 書くこと	82.0	71.8	68.4
	C 読むこと	82.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	79.1	71.5	69.8
	思考・判断・表現	76.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

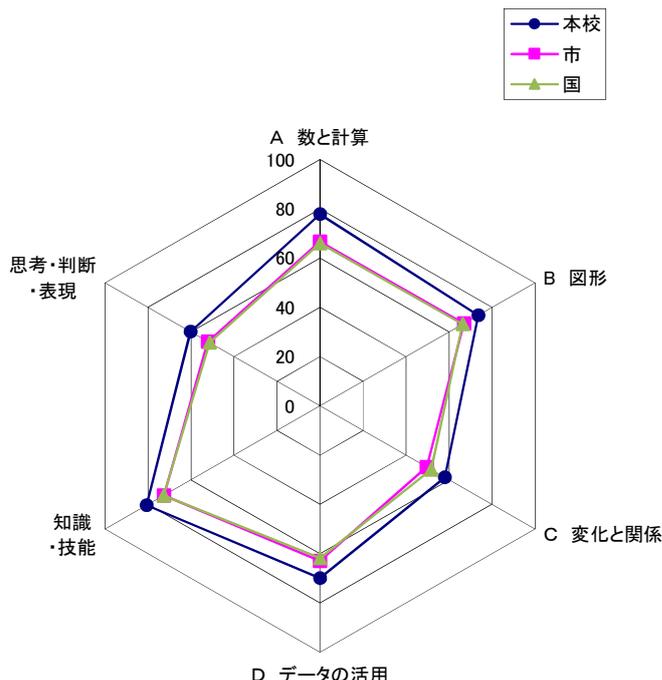
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は74.5%で、全国平均と比べて10.1ポイント高い。</p> <p>○話し合いの中で、相手の反応を受けて話し方を変えた理由について答える問題の正答率が高い。</p> <p>●文章の中で正しい漢字を使うことや、主語と述語の関係を捉え、場面の様子を想像しながら文章を読み解くことに課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習の時間も活用し、学年配当漢字だけでなく、既習漢字を継続的に練習する機会を設け、文章の中で学習した漢字を使うことができるような指導を継続していく。</p> <p>・物語文や説明文の学習では、述語に対する主語や、「いつ、どこで、だれが、何をしたのか」を確認し、主語と述語の関係を正しく捉えたり、接続詞や指示語に着目し、文章の内容を構造的に理解したりする力を系統的に育てていく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は94.4%で、全国平均と比べて7.5ポイント高い。</p> <p>○自分が考えていることや得た情報を図式化し、複数の情報を整理する方法についてよく理解していると考えられる。</p>	<p>・各教科・領域等で「思考ツール」を活用し、複数の情報を比べたり関連付けたりすることで得られる気づきから自分の考えをもち、文章化する活動を計画的に設定した指導を継続していく。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は82.4%で、全国平均と比べて7.8ポイント高い。</p> <p>○複数の読書記録を読み比べ、読書によって自分の考えを広げること気付くことができている。図書館の利用や読み聞かせ等により、日常的に読書に親しんでいる成果であると考えられる。</p>	<p>・「あらすじ」や「要約」と「感想」を区別して物語を読んだ感想を書くことができるよう、自分がどう考えたか、どんな影響を受けたかという視点を示して指導する。</p> <p>・教科書に掲載されている物語文と同じ作者の他の本やおすすりめされている本を意図的に紹介するなど、当該学年の学習に合った本を読む指導を続けることで読書活動のさらなる充実を図る。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は66.0%で、全国平均と比べて6.2ポイント高い。</p> <p>○話し合いの中で、メモがどのように役立ったかを答える問題の正答率は高かった。</p> <p>●話す内容の組み立てを考えたり、話し合いの流れを推察して工夫して話したりする力に課題が見られる。</p>	<p>・話し合い活動前の準備時間を確保することで、自分が話したいこと、中心や組立てを考え、自分の考えを整理して話すことができるような指導の充実を図る。</p> <p>・話し合い活動においては、児童が話し合いの目的を理解し、相手意識をもって参加できるようにする。話の流れを捉えたり、自分の考えとの共通点や相違点を見付けながら聞いたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるような指導を継続していく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は82.0%で、全国平均と比べて13.6ポイント高い。</p> <p>○メモをもとにして、条件に合わせて文章を書く力が概ね身に付いている。</p> <p>●自分の考えを文章で表現することに課題が見られる。</p>	<p>・文章を書く際には学年に応じた型を示し、読み手に思いが伝わる文章の書き方を引き続き指導していく。</p> <p>・条件に合わせて自分の考えを書く力を高めるため、各教科の振り返りの場面では考える視点を示し、それに沿った文章を書く力を系統的に育成する。</p> <p>・様々な学習活動において文章を書く機会を計画的に設定し、自分の思いや考えを言葉や文章で表現する力を育成していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は82.4%で、全国平均と比べて11.7ポイント高い。</p> <p>○登場人物の関係や心情を描写を基に捉えたり、人物像を想像したりする力が概ね身に付いている。</p>	<p>・文章を読む際、重要な言葉や表現に線を引いたり、時系列を確かめたりしながら読む活動を行うことで、目的に応じた必要な情報を見付ける力を系統的に育てていく。</p> <p>・自分の感想や考えを理由とともに話したり書いたりする活動を系統的に設定し、継続した指導を行うことで、どの描写からどのような心情が想像できるのか、叙述を基に想像する力を育てていく。</p>

宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	77.8	66.7	66.0
	B 図形	73.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	58.0	49.6	51.7
	D データの活用	69.9	62.9	61.8
観点	知識・技能	80.7	72.6	72.8
	思考・判断・表現	60.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は77.8%で、全国平均と比べて11.8ポイント高い。</p> <p>○問題場面を口を使った式で表したり、わる数が小数の計算をしたりする問題の正答率が高い。</p> <p>●問題場面を的確に捉えて式に表したり、計算の仕方を説明したりすることに課題が見られる。</p>	<p>・問題場面を図や数直線で表しながら数量の関係を正しく捉える力や、四則計算の性質を理解し、場面に合った式に表す力を系統的に育てていく。</p> <p>・全体だけでなく少人数での話し合い等を通して、計算の仕方とその根拠を説明する機会をできるだけ多くの児童に保障する。</p>
B 図形	<p>平均正答率は73.6%で、全国平均と比べて7.3ポイント高い。</p> <p>○立体の見取り図や展開図に関する問題の正答率が高い。</p> <p>●球体が入った箱の体積を求める問題の正答率は低い。(①球体の直径と箱の1辺を関係付けられていない誤答②立方体の体積を求めるのに3.14を式に入れてしまう誤答が多い。)</p>	<p>・図形の学習をする際、具体物を用いて実際に操作する活動を多く設定することで、図形についての豊かな感覚を系統的に育てていく。</p> <p>・図形を構成する要素から公式を見いだす過程を重視して図形の面積や体積を求めることで、問題場面や複数の図形間の関係を正しく理解して面積や体積を求めることができるような指導の充実を図る。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は58.0%で、全国平均と比べて6.3ポイント高い。</p> <p>○道のりと速さから、要した時間を求める問題の正答率が高い。</p> <p>●道のりが同じとき、要した時間からどちらが速かったかを考察する(時間と速さの関係を考える)問題の正答率が低い。</p>	<p>・身近な例を用いて道のりと時間の関係を表や数直線に整理するなど、「速さ」を視覚的に捉えることができるような指導の工夫を行う。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は69.9%で、全国平均と比べて8.1ポイント高い。</p> <p>○円グラフや観点が2つある表から数値を読み取る問題の正答率が高い。</p> <p>●2つの折れ線が重ねて描かれているグラフから、2つの値の違いを読み取り、文章に表す問題の正答率が低い。(問いに対し、解答が途中までの誤答が多い。)</p>	<p>・データのもつ特徴や傾向を把握するための話し合い活動を設定して自分の考えもったり、その妥当性を考察したりする時間を十分確保することで、課題に沿った問題解決力を育成する。</p> <p>・既習のグラフや表について、特徴や読み取り方等を繰り返し確認する。</p>

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業以外に1時間以上学習している」と回答した児童の割合は、平日が65.2%、休日が59.8%で、どちらも全国の肯定割合と比べて10ポイント以上高い。授業と家庭学習を関連付けて学習することが学習内容の定着に繋がったり、興味・関心を広げたりするなどのおよさを伝え、より多くの児童が家庭学習に取り組むよう指導していきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」についての肯定割合は93.1%、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」についての肯定割合は80.6%で、どちらも全国の肯定割合と比べて約5ポイント高い。日々の学習活動の中で意見交換する機会を積極的に設けることで、児童同士が学び合い、高め合うことができるようにする。

○「算数の勉強は好きですか」についての肯定割合は68.1%で、全国の肯定割合と比べて6.9ポイント高い。具体的な操作を伴う活動や、協働的に問題解決を行う活動を設定することで「わかる授業」を展開し、より前向きな気持ちで学習を行うことができるようにする。また、習熟度別学習を取り入れ、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。

○国語、算数の「授業の内容はよくわかりますか」についての肯定割合がいずれも全国の肯定割合より高い。本調査での国語、算数の正答率はどちらも全国肯定割合より高く、この結果からも児童が授業内容をよく理解していることが伺える。今後も児童が学習内容を十分に理解し、前向きに学習に取り組むことができるよう、教科担任制や習熟度別学習を進めながら日々の授業改善を行っていく。

○国語と算数の「今回の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」というに対して、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合が90%を超え、全国の肯定割合より大幅に高い。最後まで諦めずに問題に取り組む力の更なる向上に向け、単元テストや日々の学習活動を通じて継続的な声掛けをしていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」についての肯定割合は77.1%、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」についての肯定割合は82.0%で、どちらも全国の肯定割合より若干低い傾向である。様々な学習活動を通して振り返る場を設定し、自分の現状を分析して捉え、それを基に新たな目標を立てたり改善に生かしたりしていく態度を系統的に育んでいきたい。

●「国語の勉強は好きですか」についての肯定割合は57.6%で、全国の肯定割合と比べて4.4ポイント低い。「国語の勉強は大切だと思いますか」や「国語の授業はよくわかりますか」についての肯定割合は全国肯定割合を上回っているため、児童が国語の勉強に対して前向きに取り組むことができるようにしていきたい。分かりやすさと同時に、学ぶ楽しさや喜びを得られる授業を展開するため、学習課題との魅力的な出会いや、児童の興味関心が高まるような単元末に向けての言語活動を設定するなどの指導改善を行う。

●「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」についての肯定割合は73.7%で、全国の肯定割合と比べて4.2ポイント低い。授業の中で、現在学んでいることが身近なところでどのように活かされているのか児童とともに予想したり、更にもっとどのように活かすことができるのかを考えさせる時間を設けたりするなど、児童の学びを広げ、深める指導の工夫を行う。

宇都宮市立泉が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化や、それを基に「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動の充実	国語と算数のどちらも「思考力、判断力、表現力」を問う正答率が「知識・技能」を問うものよりも低い。しかし、「話し合い」の目的に沿って自分の考えを整理し、意見をもつことはできる。しかし、条件に合わせて文章で表現する力や、話し合いの流れに沿って話すことに課題が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化や、それを基に「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動の充実	条件に沿ったよい文章表現を共有する場や、話し合いを活発に進めていく児童のよさを価値付けする機会を設け、児童が主体的に「よさ」を意識した文章表現やコミュニケーションをとることができるよう支援する。